

アルジェリア政治・経済月例報告  
(2015年10月)

平成27年11月  
在アルジェリア日本国大使館

1. 内政

● 大統領府コミュニケ

8日、大統領府はコミュニケを発表し、今般の情報安全庁（DRS）の改編に関して、概要次の通りの説明を行った。DRS 内部における変革と組織改編の目的は、25年前に設置された情報機関の能力を強化すること及び情報機関を国内政治の変化に適合させることである。また、DRS 変革・組織改編のプロセスは、「非常事態」解除や政治に関わる諸法の施行など2011年以来実施されてきた一連の大幅な治安・政治改革の一環をなすものであり、憲法改正案によって近日中に終結を迎える。DRS は、国家の保護に献身的な役割を果たしてきた機関であり、国の重要な利害に関わる任務を遂行し、優秀な人材を有している。

● マダニ・メズラグ AIS（イスラム救世軍）元首領を巡る動き

9月に政治政党の設立を目指すと述べていたメズラグ元首領は、国民和解憲章10周年記念のブーテフリカ大統領の声明でこれを事実上拒否されたことを受け、4日、民間テレビ局エル・ワタンが行ったインタビュー放送でブーテフリカ大統領を脅迫する発言を行った。これに対して情報省は、同テレビ局社長を召致するすると共に、12日、同テレビ局の閉鎖を命じた。他方で、メズラグ元首領は当局に拘束されることなく、14日、声明を発表し、一転して大統領への謝罪を表明した。これら一連の動きは、メズラグ元首領が有する国民への影響力に鑑み、政権側が同人の説得に努めたことを示すとの見方もある。

2. 外交

● ラマムラ外相の国連演説

1日、NYで開催中の国連総会において、ラマムラ外相が一般討論演説を行った。同外相は、安保理改革に関して、国連に与えられた使命をより効率的に達成するためには、国連改革が必要。国連の主要機関である安保理は、特にアフリカ大陸に関して、国際社会の構成をもはや反映していないと述べ、また、西サハラ問題に関しては、本年6月の南アでのAU総会において明示的に示されたとおり、国連に対して、関連する国連総会決議及び安保理決議に則り、住民投票の実施期日を決定することを要求した。更に、パレスティナ国旗の国連

での掲揚に関しては、これを「歴史的な勝利」とし、東エルサレムを首都とする主権国家の誕生を保証するパレスティナ問題の正当かつ最終的な解決を後押しするものであると評価した。

### ● アルジェリア・仏関係

10月は、多数の仏閣僚・仏代表団等が来訪するなど、両国関係の緊密さがうかがわれた。まず、3日、ブーテフリカ大統領は2日に来訪したロワイヤル仏環境相と会談、また同大臣は、セラル首相とも会談した。24日には、ベルカセム仏教育相、27日にはペルラン仏文化相が来訪し、更に同日、セラル首相は、来訪した仏上院議員団、及びリヨン市長と会談した。他方で、20日にはラマムラ外相がパリで開催されたマリの経済再建及び開発のための国際会合に参加、また、26日、仏で第3回アルジェリア・仏経済混合委員会が開催され、9つの協定が署名された。この際、オランド仏大統領とラマムラ外務大臣及びブシュアレブ産業・鉱業大臣との会談が行われた。同委員会後、ブシュアレブ大臣は、プジョーの自動車組立工場建設プロジェクトに関し、交渉は順調であり、まもなくアルジェリアとプジョーは合意に達するだろうと述べた。

## 3. 治安

### ● MBMの死亡を巡るアル・カーイダ声明

4日、アル・カーイダ(AQ)は、その「サッハープ」(AQ広報部門)が発表したビデオで、「ムラービトウン」首領ムフタール・ベルムフタール(MBM)の死亡を認めた。「wa rahal nasr sharia rab alalamin(そして神の支持者が往った)」と題する同ビデオで、フサーム・アブドルウーフは、「我々は、ムスリムの英雄達が殉教する報道を見てきたが、その一人はマグレブで殉教した兄弟であるMBMだ」と述べた。同ビデオでは、MBM死亡の背景や日時については触れられていない。米軍が6月にMBMを標的として、リビアのアジュダビア空爆を行って以降、様々な動きが報じられる中で、依然として同人の生死、動向は確認されていない。

### ● アルジェリア航空機内におけるテロ容疑

8日、アルジェ発ブリュッセル行きのアルジェリア航空ボーイング737型機(AH2063)で、乗客1人が爆発物を持っていると脅したため、同機はリヨン空港に行き先を変更した。行き先を変更させられた飛行機は、乗員6名、乗客36名が搭乗していた。AFPによると、ベルギーに住んでいる1978年アルジェリア生まれの男が、フランスの航空憲兵に質問されたが、男は支離滅裂なことを話していた模様。乗客はセキュリティが航空機内に入ってきた後、当該機内から

降ろされた。この事件を受けて、アルジェリア国際空港では、空港当局がパーキングを閉鎖し、ターミナル全ての区域でコントロールを強化した。

#### 4. 経済

##### ● 2016年予算法案が閣議で承認

6日、ブーテフリカ大統領主催の閣議において、2016年予算法案が承認された。同予算法案における主要な指標は以下のとおり。

○成長率 4.6%

○インフレ率 4%

○歳入 4兆9,527億アルジェリアン・ディナール(DA) (対前年比4%減)

○歳出 7兆9,833億DA (義務的経費4兆8,73億DA、投資的経費3兆1760億DA) (対前年比9%減)

○歳入調整基金 1兆7,970億DA

○社会保障費 1兆4,615億DA (住宅補助金4,770億DA、食料補助金(小麦、乳製品、砂糖、油)2,220億DA、医療補助金3,165億DA)

##### ● 中国・アルジェリア経済フォーラムの開催

17日、中国の呂新華南南協力推進委員会会長が当地を訪問し、セラル首相と会談した。会談にはベライブ商業大臣が同席し、両国の経済関係強化に向けた話合いが行われた。翌18日、大統領府迎賓館で中国・アルジェリア経済フォーラムが開催され、呂会長とブシュアレブ産業・鉱業大臣を始め、両国の企業関係者が出席した。同フォーラム終了後、ベライブ商業大臣は、中国側より大規模プロジェクトに対する融資を提案された旨を述べ、中国側と今後対外借入について議論していくと述べた。

##### ● アフリカ経済における青年リーダー

フランスのシンクタンクであるショワズル(Choiseul)は、今後アフリカ経済を担うであろう40歳以下のアフリカ人100名を発表した。アルジェリアからは以下の6名が選出された。

1. サフビ・オトゥマニ (36歳)、NCA-Rouiba 社長、第32位
2. サリム・レブラブ (38歳)、Numidis (セビタル社子会社) 社長、第41位
3. サミ・メニシュ (39歳)、Maghreb Dow Chemical 社長、第47位
4. サミル・カルーム (38歳)、Grands Projets Alstom Moyen-Orient et Afrique 副社長、第56位
5. アドナン・ウシドゥム (38歳)、Avendis 社長、第67位
6. アデラン・メセレム (38歳)、AXA アルジェリア社長、第78位

## ● 2015年1月—9月の貿易統計

21日、アルジェリア関税局・国家統計情報センター（Cniss）は、2015年の1月—9月の貿易統計を発表した。同統計によると、2015年1月—7月の輸出額は、前年同期が482億9,200万ドルであったのに対して288億6,000万ドルを計上し、対前年同期比40.24%減となった。輸入額は、前年同期が442億300万ドルであったのに対して391億9,200万ドルを計上し、対前年同期比11.34%減となった。主要輸入相手国は、1位が中国（64億2,200万ドル）、2位がフランス（40億5,600万ドル）、3位がイタリア（36億8,700万ドル）。主要輸出相手国は、1位がイタリア（49億8,900万ドル）、2位がスペイン（49億4,000万ドル）、3位がフランス（33億8,500万ドル）。

## 5. 我が国との関係

### ● 藤原大使インタビュー

14日付当地シャアブ紙（政府系アラビア語紙）は、7日にアルジェ建築・都市計画専門学校で行われた巡回展「ストラグリング・シティーズ」の開会式展の際に行われた藤原大使のインタビューの記事を掲載した。藤原大使は、政治、経済、文化面でのアルジェリア・日本関係と、両国による更なる関係発展への努力について言及し、両国間の繋がりは独立革命の時代まで遡るとし、日本企業がアルジェリア市場の可能性に関心を抱いており、両国が希望する協力レベルに到達するための様々な協力・パートナー事業が行われていることを強調した。

### ● 大使レターの発出

10月、当地在住の政財官学界、メディア等のオピニオンリーダー等118名を対象に、我が国の北アフリカ・サヘル地域における安全保障政策をテーマとした当館公館長レターを発出した。大使は、本年8月に安倍総理が戦後70年にあたり、談話を発表し、先の大戦への深い悔悟の念と共に、二度と戦争の惨禍を繰り返してはならないとの決意を表明し、また、国際的な安全保障環境の変化を踏まえ、積極的平和主義を掲げ、今まで以上に世界の平和と繁栄のために、積極的な役割を果たそうと、本年9月に国会において「平和安全法制」が成立したことを説明し、他方で、北アフリカ・サヘル地域において、ISIL等のテロリストによる過激主義の伸張が懸念されている中、アルジェリアはマリとの和平合意署名の実現を達成し、リビアの和平仲介に取り組む等、地域への安全輸出国として貢献しており、日本としてはアルジェリアとともに、この地域

の平和と安定に貢献していきたいと考えていることを表明した。

<アルジェリア要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
10月4日	アメリカ	ラマムラ外務・国際協力大臣	国連憲章70周年記念行事出席
10月7日	チュニジア	メサヘル・マグレブ・AU・アラブ連盟担当大臣	第18回アルジェリア・チュニジア協力委員会出席
10月11日	インド	ルー法務・国璽大臣	第16回最高裁判所裁判長会合出席
10月15日	フランス	ウルド・ヘリファ国民議会議長	地中海諸国議会議長サミット出席
10月16日	アメリカ	メスレム国民連帯・家族・女性大臣	国連女性の安全保障委員会ハイレベル会合出席
10月21日	フランス	ラマムラ外務・国際協力大臣	マリ経済再建及び開発のための国際会合出席
10月24日	フランス	ベライブ商業大臣、ブシュアレブ産業・鉱業大臣	第3回COMESA（仏・アルジェリア経済委員会）会合出席
10月28日	インド	メサヘル・マグレブ・AU・アラブ連盟担当大臣	第3回アフリカ・インドサミット出席

<外国要人のアルジェリア訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
10月2日	フランス	ロワイヤル・エコロジー・持続可能開発・エネルギー大臣	ブーテフリカ大統領、セラル首相、ヌリ環境大臣と会談等（COP21）
10月5日	ハンガリー	マグヤール対外貿易担当大臣	ベレクシ外務次官と会談等
10月11日	スーダン	エル・ベシール大統領	ブーテフリカ大統領、セラル首相と会

			談等
10月12日	ナイジェリア	ロロ外務次官	ラマムラ外務大臣、ベレクシ外務次官と会談等
10月14	国際労働機関	ライダー事務局長	ブーテフリカ大統領と会談等
10月17日	中国	呂新華南南協力推進委員会会長	セラル首相、ベライブ商業大臣、テブン住宅大臣と会談等
10月18日	ウガンダ	ムセヴェニ大統領	ブーテフリカ大統領、セラル首相と会談等
10月24日	フランス	ヴァロー・ベルカセム国民教育・高等教育・研究大臣	セラル首相、ベンゲブリ国民教育大臣、ハジャル高等教育・科学研究大臣と会談等
10月25日	チュニジア	エッシード首相	ブーテフリカ大統領、セラル首相と会談等
10月27日	ブラジル	ヴィエイラ対外関係大臣	ブーテフリカ大統領、ラマムラ外務・国際協力大臣と会談等
10月27日	国連	ロス西サハラ問題担当特使	ラマムラ外務・国際協力大臣と会談等
10月27日	ガボン	ンボランスオ憲法裁判所裁判長	メデルシ憲法評議会議長と会談等
10月27日	フランス	ペルラン文化・通信大臣	第20回SILA出席、セラル首相、ミフビ文化大臣、グリーン報道大臣と会談
10月28日	オーストリア	リンハート外務次官	ラマムラ外務・国際協力大臣と会談等

(了)